

地域医療と図書館情報活動

関西医科大学附属図書館

三宅 恵子

抄録：医療の危機と言われている中で地域医療を確立するため、医療従事者全体の生涯教育や医療のシステム化が必要とされている。

医学図書館は、医療の質的向上のために、医学教育や医療従事者の生涯教育の場となり、医療情報システムの場となる必要があると思う。そして医療従事者全体に対して、医学図書館、病院図書館、情報センターなどがよりよいネットワークのもとに、情報活動を行うことも重要なことだと思う。

I はじめに

医学図書館は医学情報を伝える一つの場として活動しているが、医学教育や研究、そして実際の診療面にも役立つ活動が必要となっている。多種多様の情報をいかに提供していくか、そして情報を受ける側の範囲をどの様に考えるかなど、活動をする中でいろいろな問題点があると思うが、医学・医療に参加しているという自覚のもとに、その役割を考えなければならないと思う。

日本の医療の現状は、いろいろな面で危機にさらされていると言われている。その方策として、医療提供者・患者・国などいろいろな立場の人の協力が必要だとされている。どの地域においても質の高い医療を提供するために、日本の医療情報システムの研究がなされているが、医学教育や医療従事者の生涯教育も重要な事と思われる。そしてこの様な時であるからこそ、医学図書館は一機関の図書館から前進して、地域の病院や診療所で医療

を提供する人に対し、役立つ活動をおし進めることを考えるべきではないかと思う。

II 地域医療

地域医療は、地域・医療資源・医療システム・医療情報システムを充分考えあわせ、質の高い医療サービスを住民のために提供することが必要であると言われている。

一般に医療を提供する側から、三つの機能に分けている。

- ① 一次医療 (Primary care)
- ② 二次医療 (Secondary care)
- ③ 三次医療 (Tertiary care)

それぞれの機能を持つ医療施設、そしてそこで医療に従事する人が有機的に結びついて初めて地域医療が確立されると思われる。地域の住民にとって、一次医療は身近で一番密接である。その医療活動はその時々病気の治療をするばかりでなく、地域の人々の健康の保持に努力し、また慢性病患者に対しての援助など多くの仕事がある。現実にはこのような医療活動に対応できるための教育がなされていないと言われている。特にここでは医師と患者が信頼で結ばれた人間関係が大切であり、そのためには医療を提供する人の人間性を含めた生涯教育が必要となっている。そして今日の医学の進歩に対応できるように、自己研修を積み重ねなければならない。

大学の附属病院は、医療を提供する三つの機能のうち二次・三次医療を受けもつ医療機関である。と同時に教育・研究の面でも重要

な役目を持っている。教育は医学教育を始めとし、病院での医師の卒前・卒後教育、専門教育がある。そして、看護婦、医療従事者の卒前・卒後の研修の場となっている。

今後大学は、医療従事者の生涯教育の場として、そして開かれた研究の場としての役目も受けとめ、果すべき時にきていると思う。地域医療をにやう人々の質的向上をめざす上では大切なことである。

Ⅲ 医学図書館の役割

医学図書館は教育・研究・診療の面で、適切な情報を提供する活動をしている。大学や附属病院が医療を質的に高めるための任務を問われている時、医学図書館もまた活動を通してその任務を果すべきであろう。どのような地域にいても、適切な質の高い医療を受けることができるということがすべての人々の願いである。そのためにそれぞれの医療の場を結びつけるシステムづくりが必要とされる。そしてチームとしての医療活動も重要とされ、また医療情報をどのような場所からでも入手できるシステムの研究・開発も進められている。

このようなことを通して、まず医学図書館は、情報を提供する人々の範囲を拡大することから始めなければならない。学生、研究者、医師ばかりでなく、医療従事者全体に対する情報活動をすべきである。当館での実状を述べると、資料の整備などの面では予算の上からも学生・研究者・医師の利用を主として考えている。また利用についての案内も、医療従事者全体に対しては積極的に行っていない。

現実にはいろいろな問題があると思われるが、医療活動を行うそれぞれの人々が自分にとって必要な情報を得る一つの場として、図書館の存在は重要と思われる。範囲の拡大については、一機関の内部だけでなく、地域社会の医療従事者に対しても、図書館の情報活

動を行うべき時にきているのではないだろうか。

先に述べたが、医療に関する情報の流通をシステム化する研究が行われている。昭和49年7月、財団法人医療情報システム開発センターが発足し、活動が進められている。その中で医学文献情報システムについて述べられているが、オリジナルの文献提供は国際医学情報センター、医学図書館、病院図書室の充実と密接な相互協力活動が必要であるといわれている。

医学図書館は地域の病院や診療所の医療従事者に対し、情報活動をおし進めていくべきだと思う。また卒業生に対しても積極的に行ってない点など考える必要がある。学内の人を介して図書館を利用している事実などからも、卒業後の図書館の利用方法など具体的に検討する時にきているのではないだろうか。診療所の医師や開業医、病院図書室を持たない病院の医師が、どのような方法で情報入手するのかは具体的に分らないが、医学図書館の役割は大きいと思う。

病院図書室と医学図書館との関連については日々関心が深くなっている。現在はオリジナルの文献提供をし、病院図書室の一助としての役目を果たしていると思う。しかし、システムとして確立されたわけではなく、今後充分考えていく必要がある。病院図書室の現状は、資料・場所・人などの問題で大変な努力が必要と思われる。第一線の医療従事者からの要求はさまざまなものがあると思う。医学図書館では気づくことのできない要求などもあるかも知れない。

今後、できれば第一線医療従事者の医療情報についての要求を聞ける場を望みたい。それは、地域の医療情報提供の場として何をすべきかを決める時、必要なことだと思われる。情報の提供は、診療にすぐ役立つものと自己研修のためのものがある。その情報メデ

アも現在多種多様となっている。図書や雑誌をはじめとして、ラジオ・テレビ・カセットテープ・ビデオテープ・スライド・電話による医学情報サービスなどがある。医学図書館では図書・雑誌を主流とする文献情報活動であるが、情報メディアについても幅を広げる必要があるだろう。

IV まとめ

最近の医療の中から、地域医療を確立する

ための生涯教育や情報システムに医学図書館が果たすべき役割を考えてみた。

地域の医療提供の場と結びついた活動は、将来の医学図書館を明確にうちだしていけるのではないだろうか。ともかくも、できる事からはじめることとし、医療従事者全体に対して、医学図書館・病院図書室・情報センターのよりよいネットワークのもとに、情報活動をおし進めていくことを考えていく必要がある。

[参考文献]

- 1) 倉田正一, 林喜男: 地域医療計画, 東京, 篠原出版, 1978
- 2) 岡島光治: 地域医療システムの各構成要素の役割とその未来像 - 研究機関(大学・研究所) -, 日本臨床 33(8): 2509-2515, 1975
- 3) 吉岡昭正: 医師の生涯教育, ジュリスト, 臨時増刊11月25日号・特集 医療と人権No 548: 144-149, 1973
- 4) 日野原重明: 医療と教育の刷新を求めて, 東京, 医学書院, 1979
- 5) (財)医療情報システム開発センター編: 日本の医療情報システム, 東京, 社会保険出版社, 1980

